

今年度における各人財塾の課題と来年度の方向性(案)

資料3

課題

- ◎JIAM(2泊3日 44名受講)
- ◎JAMP(2泊3日 82名受講)
- ◆カリキュラム比率
講義4割、対話4割、報告2割

能動的な活動(講師や修了者との対話、演習、フィールドワークが少ない)

- ◎自治大学校(4泊5日(内人財塾2泊3日) 32名受講)
- ◆カリキュラム比率
講義4割、対話1割、演習5割

- ① 人財塾の期間が短い
- ② 演習が消化不良になりがち

- ◎地方開催
(1泊2日64名受講)
- ◆カリキュラム比率
講義7割、対話3割

- ① 開催期間が短い
- ② 能動的な活動(講師や修了者との対話、演習、フィールドワークが少ない)

- ◎課題解決編「フィールドワーク」(2泊3日 3名受講)
- ◆カリキュラム比率
全てフィールドワーク

- ① 参加人数が少ない
- ② 人数が少ないため、グループワークが困難

方向性

- ◎JIAM、JAMP
- ☆位置づけ:
【講義中心の初級編】

- ☆改善内容
対話の時間(修了者との対話や受講者間の対話)を増やす

- ◎自治大学校
- ☆位置づけ:
【演習中心の中級編】

- ☆改善内容

 - ① 自治大講義と合わせ土日を挟み、期間を延長する
 - ② 演習の時間を増やす

- ◎地方開催
- ☆位置づけ:
【講義中心の初級編】

- ☆改善内容

 - ① 受講者間の対話の時間を新設する
 - ② 3日目にオプションで、近辺でのフィールドワークを実施する

- ◎課題解決編「フィールドワーク」

- ① 単独開催を休止し、再来年度以降の実施方法を検討する
- ② 平成31年度は、地方開催のオプションとして、簡易な形で実施